

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会		
事業所名	社会福祉法人 伊万里敬愛会 グループホーム椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	平成29年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年10月27日	外部評価確定日	平成29年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①古い民家改修型で、利用者が生活してこられた馴染みの落ち着いた雰囲気があり、立地場所としても目の前に湖上公園があり、四季折々に花が楽しめる。また、海にも近く、風光明媚な環境にある。</p> <p>②地域住民の方が気軽に訪問されたり、行事にも沢山参加していただいたり、地域に根付いている。</p> <p>③3地区の区長、民生委員、地区役員の方に運営推進会議のメンバーに入らせていただいているので、事業所として地域の行事ほか色々な情報が得られる。また、地域の方が事業所の内容や認知症に対する理解があり、何かと協力が得やすい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>民家改修の事業所はグループホームの先駆けであり、開設当初の想いが現在も引き継がれている。出勤してきた職員を「おかえり」と迎える利用者、「ただいま」と応える自然なやり取りには理念が活かされているのがうかがえる。また、職員が法人内の異動で経験を積むことはスキルアップへと繋がり、互いを認め合いながら協力しあっている。更に、利用者へ選択を任せ待つ姿勢のケアであること、母体である病院が徒歩数分の位置にあること、そして利用者の毎月の習慣には職員が異動しても不便が生じないよう申し送り等が徹底されているのは事業所の特長でもある。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、認知障害があっても、一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を唱和し、業務の中に取り入れて実践している。	事業所はグループホームの先駆けであり、理念は立ち上げ時のメンバーが想いを込めて創り上げたものである。「ふつうの場所で、ふつうの家で、ふつうの生活」と掲げた基本方針も当初のまま引き継いでいる。職員への意識付けは朝礼時の唱和と目に付く場所への掲示である。日々のケアの中で自ずと身に付いているのは利用者一人ひとりにきちんと向き合う姿勢である。そこには理念が活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事(祇園祭・おくんち)などに参加し、事前準備にも参加している。また、椎の木の行事(夏祭り・消防訓練など)にも地域の方に参加してもらっている。	自治会に加入し、回覧板でも地域の情報を得ている。地区の行事では、祭りだけではなく清掃活動等にも積極的に参加している。徒歩数分の所にある法人母体と連携しながら交流の機会は多い。散歩の途中で立ち寄る近隣住民や、見守り等も心掛けてくれる商店主もあり、地域の一員として受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員会の新年のあいさつ時には、必ず、参加して質問などを受けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事の報告や利用者の近況などの報告を行い話し合っており、意見を聞き参考にしている。また、区長や民生員の参加もあるため、地域の情報も得ることが出来る。	市担当者は代理となっても出席者を出している。会議では事業所側からの報告に終始することなく、双方向な意見交換が行われている。区長からの防災無線設置の話は貴重な情報となった例である。会議には家族の出席もお願いしているが、平日であるため都合のつく方に頼らざるを得ない。当外部評価の結果はこの場でも報告することになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長・事務長は市役所などの関係機関と関わりを多く持っている。また、市町村担当者には、運営推進会議にも参加して頂き、情報交換を行っている。	運営推進会議のメンバーでもあり普段から顔見知りである。相談ごと等があればまず電話での問い合わせになるが、福祉関係部署には管理者の以前からの知り合いもあり、幅広く協働関係は築けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中で身体拘束防止についての話し合いがあるため、椎の木会議などで伝達し、身体拘束についての理解を深めている。	指針があり入居時に説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害を理解もしている。日中、玄関の施錠はしておらず、センサー類の設置もない。利用者は職員の目配り等で安全が確保され、自由な暮らしが支援されている。仮に外へ向かう利用者があっても無理に引き返すことはせず、本人が納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会の中で虐待防止についての話し合いがあるため、椎の木会議などで伝達し、情報を共有し、虐待の防止についての理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加したが、現在対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者・担当者・家族・利用者と十分に話し合い、不安が無い様に対応している。契約前には面会へ行ったり、他の職員からも情報を得ている。必要であれば、医師から直接説明をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者と家族とも一緒に話す機会を設け、行事への参加を呼び掛けたり、意見や要望を聞く機会を作っている。又、他の職員にも報告し合ってサービスの向上に努めている。	家族の来所は多い。行事等への参加もあり、直接話ができる機会を大切にしている。事業所はどんなことでも気軽に話してもらえるよう努めており、雑談なども大切なきっかけである。電話での報告等も密に行い、自己評価では「ほぼ全ての家族と信頼関係ができています」と記している。家族との会話から得意なことや好きなことを知り、ケアプランに反映させた例もある。事業所の外にも苦情や相談の窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、職員の意見(行事担当・利用者担当など)を聞き、日常業務にも取り組むようしている。	月一回の職員会議は10時から約一時間、これには休みの職員も出席している。限られた時間をスムーズに進めるためレジュメ準備はもとより、予め内容の周知も行っている。これにより職員には意見をまとめておく猶予があり、活発な会議となっている。管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、日頃から職員とのコミュニケーションは特に大切にしている。また、法人の体制として現場の声は上席にも届くようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤への登用や研修への参加など、平等に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、平等に参加させキャリアカードを作成し活用している。知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加や伊万里市のコミュニティ会議などに参加し、意見交換の機会を作れるように図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・担当者との話合う機会を設けることにより、本人の要望を聞き取り安心してサービスを受けて頂くように心懸けている。また、体験入所をして頂き、納得して頂き入所して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には家族から十分な情報収集を行ったり、施設内を見学してもいい、事業について十分な説明を行っている。不安な事や要望などを聞き取るように心懸けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞き取ることで、ケアマネジャー・担当他とも話し合い、必要としている支援を把握し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、出来る事・出来ない事を見極めてお互い協力しながら日常生活を送るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人と一緒に行事へ参加できるように、面会時やTEL連絡を行い参加を促し、交流できる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事へ参加することで、馴染みの方との交流を持つことが出来るように努めている。又、近所の方等自由に来て頂けるように心かけている。	入居までの人間関係を知るためには本人や家族はもちろん、担当のケアマネジャーや利用していた施設、場合によっては医師からも話を聞き情報を集めている。理念にある「地域の中で当たり前暮らし」が実践できているのは、接点を保ちながらそれを継続させている支援の成果でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、レクリエーションなどを取り入れたりすることで、会話が出来る環境を作っている。利用者同士気が合わない時は、席などを変えて、みんなが参加できるような環境作りにも心かけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入所や長期入院などは、職員が面会に行ったり、施設へ会いに行く様に心かけている。又、家族の方からも、品物など使って欲しいと届られることもある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族・担当者・ケアマネジャーと話し合いを持ち、本人あつた介護計画書を作成している。毎日、評価を行っている。	日々の関わりの中で、利用者の方から想いを話してくれることがある。それは入浴中の寛いでいるひとときが一番多い。職員はケアに当たりながらきちんと受け止め、口頭で伝えあつたり、個人記録簿にも記し共有を図っている。ケアプランに反映させた例もある。利用者一人ひとりにペースを合わせ、関心をはらうケアが実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を作成し、それをもとに生活歴などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録を行い、朝礼時に申し送り、日常生活に中での変化など情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中の会話で、思いや表情等を観察し、面会時には家族と話すことで、要望などを聞き取り、利用者・家族・ケアマネジャー・担当と話し合いの場を持ち、出来ることは実現できるように心かけている。	ケアプランの設定期間は三ヶ月ごととしているが、変化があれば臨機応変に見直しをしている。家族の要望等は主に来所時に話を聞き、利用者の想いは日頃のケアの中で把握している。サービス担当者会議には家族の同席を求め、そのためには家族の都合が優先された日程となっている。事前アンケートでは「分かり易い説明であり一緒に話し合っている」と回答が寄せられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常管理記録を活用し、個人の1日の様子を記録し情報を共有することで、介護に繋がっている。又、ケアプラン実施表で評価し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	温泉旅行や合同敬老会への参加等、家族を交えながら、職員の勤務・勤務時間の延長を行いながら柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や団体ボランティアをお願いしたり、消防訓練等の折に関係者や地域の方の協力をお願いし協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医を確認し、半年に1回・月1回の定期受診を行なっている。医師の指示と本人・家族の希望を聞き、週1回リハビリも行われている。	利用者はもともと母体である病院(協力医)へ通っていた方々で、入居後もそのままかかりつけ医として受診を継続している。受診の際は職員が同行し、家族への結果報告は当日中に行っている。週一回訪れる医療連携の看護師には相談もしやすく対応も早い。半年ごとの健康診断や毎月の定期受診等もあり、家族からは健康面や医療面への不安はないという意見が多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や判断を聞きたいときは、協力院へ相談したり、週1回医療連携を利用している。その時に、担当の看護師へ相談しアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力院と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力院の主治医と連携を図り、家族とも話し合い、重度化した場合は同意書を取り交すようにしており、方針を共有している。	指針があり、入居時に方針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。職員には、法人内の異動により他施設で培った知識や経験も備わっている。容態の変化に伴い何度でも話し合いを重ね、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修にて、事故発生時の対応など学習している。又地域の消防署の派遣をお願いし救命救急法の訓練も毎年全員が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防・災害訓練を行っている。地域の消防所より来て頂き、訓練を行なう時に指導して頂いている。地域の方にも参加して頂いている。	火災や自然災害を想定した避難訓練を年二回、その他に骨折等への対応演習も行っている。訓練は昼間帯に行い、一回は消防署の立会いもある。利用者も一緒に避難を体験し、運営推進会議と同日に行うためメンバーの参加もある。職員は消火器や火災通報装置の使い方を承知しており、家具の固定もしている。非常食や水、寒さを凌げる物は一次避難場所である法人施設に備蓄があり、最近の台風接近では独自に備えたりもしている。居室の名札は、外部の応援者に介助の度合いを知らせる表記があり、外して落とすことで退室済みの合図としている。消防署から指摘等があれば速やかに改善され、全員に周知し記録も残している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をもとに、対応している。言葉掛けには、入所者ばかりだけではなく、職員同志も気をつけている。	トイレや入浴時の介助が最も配慮を要する場面である。事業所では、自分がされて嫌なことはしない、トイレのドアは必ず閉める等々をごく自然に実践している。もし不適切な場面を見た場合は、「6(5)身体拘束をしないケアの実践」にも共通するが、まず全体へ問題提起し、職員各々が自らを省みるきっかけとしている。また、個人情報の取扱いに対する意識も高く、写真や名札の掲示等に関しても入居時に本人や家族から承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常に本人の希望を聞きとりが出来るような言葉掛けを行い、支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたペースで、会話をしながら希望を聞き取り支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をしていえる。又、その日に着る衣類を選ぶことが出来る方には、選んでいたき来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の種類などに応じて、下ごしらえをして頂いてもらっている。現在、1名～2名の方が時々手伝ってくださる。献立も利用者に関心しながら決めている。	利用者に食欲はあり、お互いに会話をしながら和やかな食事風景である。献立は食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫の中身で決まったり、一般の家庭と同じである。家族から野菜の差し入れもある。アレルギーの有無や好き嫌いの把握もしており、検食者のみが同じものを食べ、他は持参の弁当などで一緒に食卓を囲んでいる。介助は、できるだけ自分で口へ運んでもらうためにも最小限に止めている。食べやすい形状での提供や、器は軽い焼き物を使用するなど工夫もみられる。誕生日は当日に祝い、家族が訪れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・形態など、その人に合わせ作っている。水分補給も食事3回・間食2回行っている。希望や体調に合わせ、食事の量・水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で、洗面所まで行ける方は、見守りを行いながら歯磨きをして頂いている。出来ない方は支援をしている。毎食後口腔ケアを行い寝る前は、洗浄剤に浸けて、起床時に渡している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必ず、トイレ誘導し排泄を促している。時間・排泄内容を記録している。	排泄に関して自立している利用者は三名程である。しかし、任せたままでなく、さりげない見守りも行っている。日中はトイレでの排泄が主で、チェック表から予測もでき、入居後にオムツからパット、布パンツへと改善した例もある。これらは費用の負担軽減にも繋がっている。事業所では紙タオルによる手の乾燥を防ぐため、手拭用に小さめのハンドタオル(一回で洗濯へ)を使用している。また、炊飯器の保温機能を使った温かい清拭用タオルの用意もアイデアのひとつである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には、穀物類や野菜など多くの種類を使用するように心懸けている。また、乳製品や果物などもかならず、摂って頂くようにしている。又、排便チェックをおこない必要に応じて対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の入浴は、1日おきに入浴されている。入浴するしないは本人の希望を聞いている。その時の状況に合わせて入浴して頂いている。	入浴は一日置きに支援されているが、希望があればいつでも可能である。拒む方はなく、お互いに譲り合ったり、勧めたりしながら楽しんでいる。ゆったりと寛ぐ中で想いを話してくれる利用者もある。冬場のヒートショック対策として脱衣場や浴室をエアコンに加え温風ヒーターでも暖め、浴室のタイル床にはマットを隙間なく敷き詰めてもいる。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、見守りのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由部屋で休まれたり、ソファで休んで頂いている。就寝時もバラバラで、本人の希望をきき対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬の内容記載紙を管理し、内容を確認できるようにしている。また、薬を取りに行ったとき、薬剤師の方より症状などを聞かれる為、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、簡単な掃除、食事の準備等、出来る方にはして頂き、その人に合わせて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでの行事(温泉旅行・合同敬老会・地域での行事など)で家族の協力もあり、出かけるようにしている。外出するときは、必ず、近所の方に伝えて外出するようにしている。	自己評価では「ほぼ全ての利用者が戸外に行きたい所へ出掛けている」と記している。日常的に周辺への散歩も多く、日光浴や近所の方との会話はよい刺激となっている。歩行が難しい場合も一対一で対応し、外の空気に触れることを勧めている。玄関前のアプローチも近々補修され、手押し車でも通りやすくなる予定である。行事計画にある外出は家族も承知しており協力が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名のみお金を所持されている。家族の了解と本人の希望で、1回につき3000円程度所持されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELされる方はいないが、かかってきた場合はTELに出られるように支援している。地元の方が多いため、手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風家屋を最大に生かした民家改修型で浴室・洗面所・炊事場など、それぞれの空間があり転倒されないように、危険な個所は、黄色いテープなどを貼り事故防止に努めている。また、各部屋には、家族の写真や家族が持ち込まれた物などを置いている。	事業所の特長は、所どころに段差はあるもののテープ等で注意喚起をし、民家を改修した中でも不便なく安全に暮らしているところにある。利用者が日中の殆どを過ごすリビングでは住み慣れた自宅と同じように動き、柱や壁もそれを妨げるものではない。車の騒音もなく、夏場はヨシズ等で日差しを調節している。トイレや浴室はきれいに掃除され、嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる方が多い。休みたい方は、部屋へ戻られたり自由過ごされている。ソファに座られる時も、気の合ったかたが隣同士になるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由にして頂いている。家族の写真や絵等を飾っておられる。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険物以外に制限はない。民家改修型のため居室には障子や襖もあり自宅と同じような感覚である。掃除は職員が行うが、できることを手伝う利用者もある。家族の写真等も飾られ、居心地よく過ごしてもらおうための配慮がうかがえる。担当の職員も決めており、衣替えの手配など細かい支援ができています。また、家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な個所に手すりを設置している。又、出来る限り、段差を解消している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない